

平成13年度

NPO・ボランティアグループによる
子どもたちの体験活動促進事業
報 告 書

はじめに

阪神・淡路大震災から7年余が経過し、震災を経験した子どもたちの心のケアは、今なお重要な課題となっています。

平成13年7月の県教育委員会の調査では、震災による心のケアを必要とする児童生徒数は、3,142人と依然として多い状況にあります。

復興計画の後半の5年を効果的に推進するため、平成12年11月に策定した「阪神・淡路震災復興計画後期5か年推進プログラム」においては、今後、留意して取り組むべきしくみ（“む すぶ・つなぐしくみづくり^{エイト} 8”）の1つとして、「子どもの体験活動と自発性を促進するしくみづくり」を掲げています。

このようなことから、平成13年度において、阪神・淡路大震災復興基金事業として、被災地の子どもたちが、元気を出し、いきいきと活躍する場（居場所）を見出すことができるよう、NPO・ボランティアグループが実施するスポーツ、文化、技能、自然体験等の体験活動を助成する「NPO・ボランティアグループによる子どもたちの体験活動促進事業（単年度実施）」を実施しました。

平成13年4月に助成グループを募集したところ、16グループの応募をいただき、審査を経て、そのうち5つのグループに、被災地の子どもたちを対象としたさまざまな体験活動を実施していただきました。

平成14年3月には、専門家の方々を招き、各グループが実施した体験活動の内容や成果、課題などを報告するとともに、今後の取り組み方向について意見交換を行った「事業報告会」を開催しました。

この冊子は、今回実施したこの事業の成果が、子どもたちの体験活動の一層の促進につながるように、事業の概要や各グループの活動、事業報告会の模様などをまとめたものです。

この冊子をご覧になられた方が、今後、さまざまな子どもたちの体験活動を企画・実施されて、子どもたちの活躍する場（居場所）が広がることを期待します。

- 目 次 -

はじめに	1
事業の概要	3
助成グループと実施した体験活動の紹介	8
事業報告会	20
[参考]	51
・募集チラシ	